

# ●ともに初優勝です

九州女子ミッドアマチュア選手権競技V

1バーディー、6ボギーの77

黒石 沙也佳(若宮)



写真は初優勝の黒石(左から2人目)と一緒に喜びの表情の選手たち

これまで2度の2位を乗り越えての優勝だ。最初は2015年、2度目は2018年。昨

年はプレーオフとなり、3ホール目で敗れた。「時間がたつにつれて悔しくなって。チャンスだったのかな」と黒石には後悔の戦いとなった。九州代表として臨んだ日本女子ミッドアマも83位と振るわない。その後、思い切って10年ぶりに1、3、5番のウッド3本を換えた。今ではドライバーの飛距離が10ヤードほど伸びたという。クラブのチェンジは気分転換の意味合いもあったのかもしれない。

アウトスタートの前半。「合わせたのが良くなかったようで」とショットが曲がってノーボギー、5ボギーの41。インに入ると、半ば開き直って、思い切り振るようになると1バーディー、1ボギーの36。結果的には諦めずに後半パープレーで回ったのが初優勝に結び付く。「このコースはアウトが難しい。後半は頑張ろう、と思っていました。何とかまとまりました」と笑顔を見せた。

現在、約30人いる福岡県女子研修会に所属し、リーダー的存在。会は2カ月に1回開催され、各大会の行われるコースなどを回る。常に試合を想定してのラウンドだけに各自が緊張感を持ってプレーする。日頃からの真剣ラウンドは大いに試合に役立っている。

九州女王として臨む日本女子ミッドアマ。「九州は強い人が多いし、とにかく頑張りたい」と抱負を語った。福岡の柳川高から専修大で腕を磨いた黒石が全国で上位を目指す。

## 九州女子シニア選手権V

ノーバーディー、8ボギー、1ダブルボギーの82

荒田 つゆ子(いぶすき)



荒田がホールアウトした時点で、まだ10組40人近くが残っていた。「70台で回れなく恥ずかしい」と照れ笑いを浮かべていたが、終わってみれば2位に2打差の初栄冠となった。

アウトスタート。「ドキドキで緊張していた。それが良かったのかも」と最初の3ホールをパーで滑り出す。これで乗る。アウトはバーディーこそなかったものの、39と安定したゴルフを展開。インは15番でのダブルボギーと5個のボギーで43。「ジャパンには16人が行けるけど、16人を目指したら落ちる。その上を目指して行こう、と」の気持ちの持ち方が好結果につながった。

鹿児島県指宿市在住。ゴルフは薬剤師の仕事の傍ら、知人の医師の勧めがあって遊び感覚で30歳代から始めた。45歳で本格的に競技を開始するのだが、その年にいきなり全国大会への切符を手にする。

得意なクラブは52度のアプローチウエッジ。「これ1本です。上げたり、転がしたり」と自由自在。ドライバーの平均飛距離は200ヤードながら、多彩なアプローチでスコアをまとめる。

「令和元年に(タイトルを)取れてうれしい。ジャパンで(代表の)16人で頑張りたい。ぜひシードを取って九州枠を増やしたい」と57歳の女王は意気込んだ。